

企画展「中谷ミユキ展ー語り合う静物」

【関連行事】

●ワークショップ「油絵風な絵、かいてみよう！」

日 時：3月2日(日) ①午前10時～12時 ②午後2時～4時

講 師：稲熊兼氏（ヴェロン會同人、こどもアトリエ主宰）

対 象：年少～小学生（小学3年生以下は保護者同伴）

参加者数：①10名 ②9名（定員：各回10名）、抽選

参加費：500円（材料費）

内 容：ミユキさんの絵のような立体的な絵を描きました。

ワークショップでは、最初にジェッソ（下地材）を塗ることからスタートしました。講師のけん先生がお手本を見せてくれます。ジェッソを厚紙の上に載せて、その上からスポンジで押さえると、フワフワとした模様が浮かび上がりました。その他、ヘアブラシやバターナイフなど、身近にある道具を使って、ジェッソを伸ばしたり削ったりすると、下地が様々な表情に変化していくのが分かりました。

描きたいものが決まったら、実際にジェッソを塗っていきます。どの子ども、下地作りは初めて。間違えたら、削ったり水で拭いたりできることを教えてもらおうと、どの子ども思い思いの下地を作成していききました。

下地を乾燥させている間に、展示室に移動して企画展「中谷ミユキ展ー語り合う静物」の鑑賞をしました。ミユキさんの絵は、初期には比較的薄塗りですが、徐々に厚塗りになっていきます。そんな変化を感じながら、けん先生、学芸員とともに絵を見ました。

講義室に戻ったら、下地の上に色を塗っていきます。塗ってみると、下地の効果が表れました。木肌のように筋を付けておいた下地の上に茶色の絵具を重ねると、本物の木の幹のような質感になりました。動物の毛並みや魚の形も、下地の効果を上手く利用して表現



していきます。

2時間という長時間、鑑賞も挟んでのプログラムでしたが、皆さん集中して取り組んでいました。「油絵」というと、通常は時間も特別な材料も必要ですが、けん先生のアイディアにより、ほとんどが身近に入手できる材料で、短時間で油絵風の絵を完成させることができました。

今回、小学3年生以下は保護者同伴でしたが、事後のアンケートでは「初めての体験を子どもと一緒に楽しめてよかったです」「家ではなかなかできない経験をすることができてよかった」等のご感想をいただきました。当館では今後も、アーティストの方にご協力いただきながら、お子様に様々なアート体験をしていただけるような事業を展開していきたいと思っております。

